

1. 授業時数特例校制度導入の考え

(1) 実施の目的

本校喫緊の課題である〈学力の定着と向上〉を考えた時に、基礎・基本の定着を最優先課題として取り組む必要がある。そこで、国語と算数に教科を絞り、読み書きを軸とした基本の定着を目的とし、資質能力の育成と基本的な学力の定着を図るために、本授業時数特例制度を導入する。全校展開で国語と算数に教科を絞り、時数を増加し、育成すべき資質・能力の明確化と単元の特性や伴う効果的な指導により、学習の充実を図り、言語能力と問題発見・解決能力の育成に努めて学力に繋げる。

(2) 解決を図る学校課題

標準学力テスト（NRT）の数値の改善が最重要課題である。各学年ともに前年度から右肩下がりの傾向が顕著であるので、底支えする必要と数字の上向き改善が必定である。本授業特例制度導入により、これを機会と捉えて各学年の低学力傾向を是正しながら、確実に高学年での学力定着、及び向上に繋げていける施策運営を組織的に模索して効果的な展開を通年継続していく必要性を強く感じる。

(3) 保護者・地域住民への周知

岩見沢市教育委員会の説明パンフレットと学校だよりの併用により、保護者周知を実施している。

- ⇒ 12月 「巻頭言」と「岩見沢市教育委員会の説明パンフレット」のハイブリット版での学校だよりにて、本施策の概要と令和7年度に導入予定であることを明確に周知した。
- ⇒ 2月 「巻頭言」「別ページ1枚」にて、本校での施策導入目的と時数具体を周知した。
- ⇒ 4月 「PTA 総会」で改めて施策施行を周知し、地域には「学校運営協議会」を効果的に活用しながら、導入状況等を周知していく予定である。

2. 各教科等年間授業時数

上段…学校教育法施行規則に定める標準授業時数 下段…変更後の授業時数（授業時数の増減）

学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科の授業時数	国語	306	315	245	245	175	175
		306	315	255(+10)	255(+10)	185(+10)	185(+10)
	社会	-	-	70	90	100	105
		-	-	65(-5)	85(-5)	95(-5)	100(-5)
	算数	136	175	175	175	175	175
		151(+15)	190(+15)	185(+10)	185(+10)	185(+10)	185(+10)
	理科	-	-	90	105	105	105
		-	-	85(-5)	100(-5)	100(-5)	100(-5)
	生活	102	105	-	-	-	-
		97(-5)	100(-5)	-	-	-	-
	音楽	68	70	60	60	50	50
		63(-5)	65(-5)	55(-5)	55(-5)	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50	
	63(-5)	65(-5)	55(-5)	55(-5)	45(-5)	45(-5)	
家庭	-	-	-	-	60	55	
	-	-	-	-	55(-5)	50(-5)	
体育	102	105	105	105	90	90	
	102	105	105	105	90	90	
外国語	-	-	-	-	70	70	
	-	-	-	-	70	70	
特別な教科である道徳の授業時数	35	35	35	35	35	35	
	35	35	35	35	35	35	
外国語活動の授業時数	-	-	35	35	-	-	
	-	-	35	35	-	-	
総合的な学習の時間の授業時数	-	-	70	70	70	70	
	-	-	70	70	70	70	
特別活動の授業時数	34	35	35	35	35	35	
	34	35	35	35	35	35	
合計	850	910	980	1015	1015	1015	
学校行事	38	37	37	37	50	47	
児童会活動	4	4	4	15	15	15	
クラブ活動	-	-	-	6	6	6	

第1学年の余剰を含めた総授業時数 [906 時間] 余剰時数 [56 時間]
 第2学年の余剰を含めた総授業時数 [964 時間] 余剰時数 [54 時間]
 第3学年の余剰を含めた総授業時数 [1032 時間] 余剰時数 [52 時間]
 第4学年の余剰を含めた総授業時数 [1063 時間] 余剰時数 [48 時間]
 第5学年の余剰を含めた総授業時数 [1054 時間] 余剰時数 [39 時間]
 第6学年の余剰を含めた総授業時数 [1046 時間] 余剰時数 [31 時間]